

東舞子

2015/4/30 (5月号)
神戸市立東舞子小学校
平成27年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

新しい花とともに もっと美しい学校に

春の明るい陽射しに包まれた学校は、よりいっそう素敵です。子供たちの顔が輝いて見えます。見ていだけで幸せな気持ちになって、心が弾みます。174人の1年生、12人の転入生、12人の異動職員を迎え、東舞子小学校に新しい花が咲きました。これで、本校の児童数は993人、教職員数は56人となり、それぞれの花が、校舎や校庭に美しく咲きほこっているように見えます。それぞれに新しい出会いがあり、新鮮な環境があったと思います。緊張感もあると思いますが、それ以上に「がんばるぞ!」というやる気を感じる子供たちと先生たちがいっぱいいます。

私も触発されて、今年度、自分なりに「がんばりたい!」ことを心に決めました。それは、「ごみを拾う」ということです。あたりまえにできていないといけませんが、いつもちゃんとできていたかという、恥ずかしながらできていないときもあったと反省しています。「学校の中で気がついたらごみを拾う」ということを、今年度心に決めて実践したいと考えています。今年、54年目を迎えた本校は、さすがにいたるところ古くなったり傷んできたりしていますが、よく見れば見るほど、小学校らしい味わいのある校舎や校庭です。ここで多くの子供たちが学び遊び成長していったという痕跡があちこちにあって、とても愛着を感じます。ていねいに真心を込めて「ごみを拾う」ことで、お世話になっている学校への感謝の気持ちを表したいと思います。ごみが落ちていない学校にして、中身も外見も美しく輝く学校にしたいと思っています。

■■■■■ ずっと見守る!? 「あの方々」“HIGAMAI WALKER” ⑩

東舞子小学校の校門をくぐって、玄関に至るまでの右手の植え込みの奥を覗くと、何やら不思議な形の埴輪のような人形が目にと留まると思います。「東舞子の不思議」の一つになっている“オブジェ”と言ったほうがよいような人形たちです。何やら笑っているような、おどけているようなぐさで、ユーモアにあふれています。向き合っていると、何となく気持ちが明るくなってきます。しかし同時に、「この方々はいつから何故ここにいらっしゃるのか?」という疑問が湧いてきます。かつて東舞子におられた先生方に尋ねますと、「前からずっとあったよ。」という返事が返ってきます。ならばということで、開校当初におられた先生にお話を伺いますと、「確か、開校間もないころの図工の卒業制作だったと思う。」ということでした。その図工の先生は、大西博文先生で、東舞子小初代の図工専科です。残念ながら、すでに他界されておられご本人にお尋ねすることはできませんが、実は娘婿にあたる方が、神戸の先生をさせてお話を聴くことができました。先生は、卒業生とともに、開校間もない学校にホッとできる楽しい演出を考えられたのではないかということでした。東舞子の校章の発案者でもある大西先生は、いつまでも東舞子を大事に思い、東舞子の自慢をしておられたそうです。先達の思いのこもった“あの方々”は、50年以上もこの東舞子の移り変わりを見届け、東舞子の子供たちを見守ってきてくださいました。今日も何気なく玄関の脇にいらっしゃいますが、ふっと笑顔になれる心の安らぎをいただきました。



校長 小野晃弘